

粕谷和夫の観察日記。京都の棚田を訪れた日は亀岡市で宿をとりました。亀岡と言えば明智光秀の居城。翌日は、格子戸が並ぶ城下の町並み（旧山陰街道）を散策、城内に植物園があったので、覗いてみるとユキミバナという超珍しい花が咲いていました。秋の始まりから雪が降る頃まで花が咲くことからこの名がつけられたと説明がありました。

# 紅葉台



# 新聞

第165号

2025年

1月18日

発行人：関谷 孝

## 「私の 吉田松陰先生」



上谷良平

私は松陰先生が大好きだ。

皆さんは松陰先生のことをそもそもどこまでご存じなのでしょう。名前だけは聞いたことがあるけどという人がほとんどではないでしょうか。太平洋戦争中は愛国の士としてもはやされたようだが、天国にいらっしゃる先生としては神社など建てられて戸惑われておられると感じます。

先生は山口県出身で、9歳くらいで藩主に講義したという大秀才で、叔父にスパルタ式で公私の区別などをたたきこまれている。例えば、先生が勉強中に蚊に刺されたので、かゆいので搔いていたら、叔父に殴られたのでその理由を聞くと、「蚊に刺さ



れてかゆいのは私的事柄である。それにとらわれ、公的な学問の勉強をおろそかにした」という事である。なるほど、それも理屈であるという感じですね。先生はその叔父の開いた松下村塾という汚い小さな塾の教師として幕末動乱期1年のちょっとの間無償で老若男女に教えてらっしゃいました。わずか1年の間しか教えていなかったにもかかわらず、明治維新の英傑たち、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文などを輩出し、塾生の80%が明治政府の重職を担うという驚異的な実績をたたき出している。私も松下村塾に通いたかった。それ程までに若輩ではあった若者達の心を揺るがせ、奮い立たせた人物が吉田松陰なのだ。

ちなみに、幕末好きな私は京都と函館に惹かれてならないものがある。おそらく私の前世は幕府方で、戊辰戦争では敗北を続け、非常に悔しい思いをしたのではと思っている。

私は先生と呼ばれる職業に興味がある。振り返ってみると、小学校、中学校、高校、大学といろいろな先生に教えて頂いたが、褒められたことは全くなく、怒られたり、立たされたり、殴られたりされたただけだが、恨みこ

そすれ、尊敬できる先生は一人もいなかった。理由はまず、潜在能力が私より遥かに上回る人は誰もいなかったからだ。偉そうな言い方で申し訳ないが私は東大卒でも京大卒でもないし、顕在能力では負けている奴は山のようにはいますが、人間も生物である以上、本能として自分よりはるかに能力が上の人間には逆らえませんが、そう感じる先生はいなかったということです。結婚式にも誰も呼んでないし。後、教え方がうまい先生も一人もいし。だって狭い教室なのに声を出すのが面倒くさいと言ってマイクを使う先生、石のスケッチをずっとやらせる先生。こんな奴は先生ですか！私の貴重な時間を返してくれ！と言いたくなる。おかげ様で勉強が足らず、浪人したので予備校に行ったが、授業は面白くて最前列をいつも確保。予備校の先生はほんと教えるのが上手。パチパチやはり、教えるのもうまい、人格も立派という先生は時代が生むという法則もあり、現代では見つけるのは困難であるのは致し方がない。



話は戻り、松陰先生は何故短期間で人に多大なる影響を与えることができたのか。時代が生んだ人だったからともいえるが、私は3つの理由があると思う。

一つ目は性善主義で生徒に教えることにしている点。どんな人間であっても

必ず優れたものを持っているから、教師たるもの生徒のその良い点を見つけ、引き出し、伸ばしてやるのが本業と言われている。誰でも先生から褒められると嬉しいですよ。それで人生が変わった人もたくさんいると思う。それほどまでに先生という職業は人に影響を与えるということです。サラリーマンなんか減点主義が原則で失敗しないことを絶えずこころがけている。息が詰まるころはあるけど、我慢して上司に逆らわない奴が出世していく。

二つ目は、貪欲な知識吸収意欲と謙虚さである。生徒といえど自分より優れた点を持っていたらそれを教えてもらいたい。先生は監獄の囚人達にも優しい言い回しで学問を教え、囚人達も先生を慕い精進していったといわれ

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

粕谷和夫の観察日記。京都の棚田を訪れた日は亀岡市で宿をとりました。亀岡と言えば明智光秀の居城。翌日は、格子戸が並ぶ城下の町並み（旧山陰街道）を散策、城内に植物園があったので、覗いてみるとユキミバナという超珍しい花が咲いていました。秋の始まりから雪が降る頃まで花が咲くことからこの名がつけられたと説明がありました。

る。先生と言われふんぞり返っている奴が多い中、実に謙虚である。

三つ目は実行力。教師たるもの、机の前に座って勉強しかしてない人はだめである。

取得した知識を世の中にどう生かすかが大切である。先生はまさしく幕府老中の暗殺計画を立てるなど、まさに本当に命を懸けている。今の政治家も命をかけて邁進するというが、目標が達成しなくて死んだ奴はいないよね。

この3つを掲げ実践されてきた内容こそ私が松陰先生を心から尊敬している理由である。時代を変えるのは皆若者であり、「みな狂え」と発破をかけておられる。すなわち、志を達成するには、狂うほど目標に執着し、脇目もふらず突進していくことが大切という意味と解釈している。



吉田松陰先生

私は今世田谷線の若林と松陰神社前の真ん中の場所に住んでいる。実は2年前に神奈川県から引っ越してきたばかりで、新居を建てた時、入り口の照明には、松陰先生のお言葉を書き込んであります。『志を立ててもって万事の源となす』思いこみかもしれませんが、松陰神社に近い土地が買えたということで私は松陰先生に呼ばれたと自負しています。また、長男の子供である孫は松陰先生と同じ日に生まれています。

松陰神社にお参りされる方は多いけれど、ほんとにわかって来られているのかなと疑問に思っています。初めにも書きましたが、松陰先生は人間だし、神様として祭られることには照れくさいと思われているんじゃないかな。だから私は、松陰神社にお参りする方々にはご利益

などを願うのではなく、神様とあがめられるほど時代を変革し日本を導いた吉田松陰という男を本当の意味で知ってもらい、志半ばで倒れ死んでいった若者達をしのび、少しでも日本のために動いてもらいたいと切に願うものです。

## 松陰神社の由来

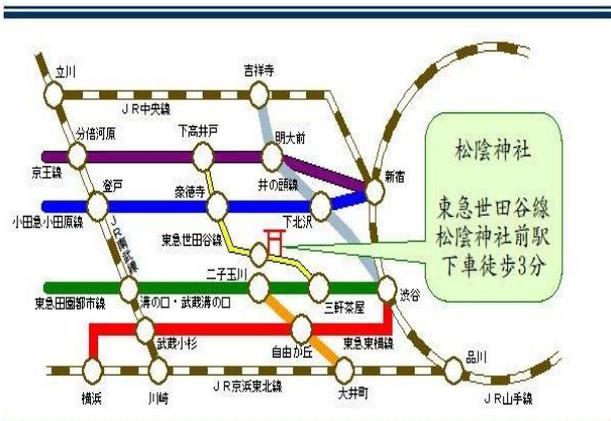
吉田松陰先生は安政6年10月27日、安政の大獄に連座し江戸伝馬町の獄中にて30歳の若さで刑死されました。その4年後の文久3年、松陰先生の門下生であつた高杉晋作、伊藤博文、等によってこの世田谷若林の地に改葬されました。神社所在地一帯は江戸時代から長州毛利藩藩主毛利大膳大夫の別邸のあつたところで大夫山と呼ばれていたそうです。



明治15年11月21日松陰先生門下の人々が相謀り、墓畔に社を築いて先生の御霊を祀り忠魂の鎮座するところとなりました。今日の社殿は昭和二年から三年にかけて造営されたものです。近年は学問の神として崇敬を集め参拝者は全国各地に及んでいます。

## 今年は、皆様からの投稿をお待ちしております。

A4サイズで1枚ぐらい。写真も付けていただけましたら幸いです。また、取材もしますので情報を頂けましたら嬉しいです。今年のテーマは、「歩く」です。どこかにお出かけしたことや散歩にいいところ、美味しいものの紹介等投稿していただけますようお願いいたします。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。